

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

何事にも誠実に取り組み、創意を凝らし未来づくりのプロとして社会で活躍する人材を育てる。 1. 技術を身に付け、資格の習得によって社会を支える人材を育成する。 2. 「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」としての社会人基礎力を育成する。 3. 授業力の向上をはじめとする教員の資質向上と組織力の向上に努める。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) わかる授業めざして授業改善する ア 研究授業の実施、授業アンケートの活用により授業改善を行う。 イ 1人1台端末を活用した授業を推進する。 ウ 学校設定科目「基礎学習」において、高等学校段階の学習に必要な基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。 ※学校教育自己診断（生徒）で「授業の内容がよくわかる」の肯定率を令和8年度に95%（R4：86%、R5：87%） ※学校教育自己診断（生徒）で「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を令和8年度に90%（R4：82%、R5：82%） 2 生徒のキャリア形成と自己実現に向けた指導計画の確立 (1) 生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、教育活動全体を通じて計画的、組織的な工業教育、進路指導を行う。 ア 産業各分野の資格取得、検定合格に向けた取組みの推進 イ 3年間を見通した計画的な進路指導の充実 ※学校紹介による就職希望者の内定率100%を令和8年度まで維持する（R4：100%、R5：100%） ※資格試験、各種検定受験者を令和8年度に200名（R4：175名、R5：189名） ※学校教育自己診断「工業に関する知識や技術の定着」の肯定率90%以上を令和8年度まで維持する。」（R4：91%、R5：91%） ※学校教育自己診断「将来の進路、生き方を考える機会がある」の肯定率90%以上を令和8年度まで維持する（R4：91%、R5：89%） (2) 社会人基礎力の育成と生徒の規範意識の醸成を図る ア 全教職員による指導体制を充実させ、生徒の基本的生活習慣の確立、規範意識の向上に向けた指導を行う。 ※学校教育自己診断「学校生活における規範意識」の肯定率95%以上を令和8年度まで維持する。（R4：93%、R5：95%） 3 安全安心で魅力ある学校づくり (1) すべての生徒が安全で安心して学校生活を送るための支援体制を確立する ア HR活動、学年集会・全校集会などを通じて、人権課題を考える機会の充実を図る。 イ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止及び事案対応について組織的に対応する。 ウ SC、SSWなどの外部人材と連携しながら適切な生徒支援を行う。 ※学校教育自己診断の「いじめ対応」の肯定率を令和8年度に95%（R4：90%、R5：87%） ※学校教育自己診断の「学校生活の相談がしやすい」の肯定率を令和8年度に90%（R4：84%、R5：81%） (2) 学校環境の整備と生徒・教職員の健康管理の充実に努める ア 学校医、保健医療機関と連携しながら学校保健委員会の取組みを充実させる イ 校内美化の取組みを推進し、快適な学校生活環境を整備する。 ※学校教育自己診断の「校内美化」の肯定率を令和8年度に90%（R4：75%、R5：78%） (3) 主体的に学校生活を送る意識を醸成する。 ア 学校行事の充実や生徒会活動、部活動への積極的な参加を促進し、学校生活への主体性を育むとともに学校や集団への帰属意識の高揚を図る。 ※学校教育自己診断の「学校行事や部活動への積極性」の肯定率を令和8年度に学校行事90%、部活動75% (学校行事⇒R4：90%、R5：91% 部活動⇒R4：63%、R5：54%) (4) 本校の特色ある工業教育の魅力発信 ア 体験入学、学校説明会また中学校訪問等による広報活動を充実させ、中学生、保護者、中学校教員の工業高校の学習内容に対する理解を深める。 ※入学者選抜において募集定員上回る入学志願者数の確保（一般選抜志願倍率⇒R4：0.57倍、R5：0.66倍） 4 学校組織力の向上と校務の効率化 (1) ICT活用して校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。 (2) 校務分掌、各種委員会を実情に応じた機能的な学校組織への改善に努め、教職員の働き方改革を推進する。 ※時間外勤務時間が月80時間以上の職員をなくす（R4：9名、R5：4名）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 6 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 生徒、保護者、教職員全体から学習指導への高い評価が得られている。生徒は工業に関する知識や技術、ICT活用、キャリア教育を肯定し、保護者からは専門教育や進路指導について信頼されている。また、生命の大切さや社会ルールの指導も評価されている。教職員は個別の進路指導や教材の精選において成果を上げており、学校全体で生徒の未来を支える体制が充実している。 ○今後の課題 生徒の学習理解や家庭学習の習慣が低下しており、保護者からも授業のわかりやすさへの改善について要望がある。教職員のキャリア教育の評価も課題で、学習支援の充実や指導法の見直しが求められている。 【生活指導】 生徒は学校生活を楽しみ、ルール遵守や友人関係、家庭での会話を大切にしている。教員の生活指導やいじめ対応にも信頼があり、保護者からも高評価を得ている。家庭との連携が取れており、生徒の健全な成長を支えている。教職員間でも教育相談体制が整備され、組織的に対応できる環境が構築されている点が学校全体の強みである。 ○今後の課題 生徒から学校生活の楽しさや相談環境への評価が若干低下しており、指導方法や支援体制の見直しが必要である。保護者からも教員の生徒理解や学校生活の楽しさに改善要望があり、教職員間で人権意識を高め、いじめ対応を強化する必要がある。 【学校運営】 生徒は学校行事や部活動に積極的に参加し、楽しさや主体性を感じている。保護者は学校の相談対応や教育情報の提供を高く評価し、家庭との連携も強化されている。教職員は日常的な話し合いや服務規律への意識が高く、校長の理念発信も向上。これらの取り組みにより、学校運営の安定と信頼が確立されている。 ○今後の課題 生徒の部活動や学校行事への満足度が若干低下しており、活動内容の魅力向上と参加しやすい環境整備が必要である。また、満足度向上に向けた工夫も求められる。保護者では、ホームページ閲覧率の低下と情報発信の改善が課題で、満足度向上策が必要である。教職員間では、学校行事や連携評価の低下があり、意識共有と連携強化が急務です。	第1回（6月14日） ○学校の現状について ・令和6年度志願者数の地域分布はどうなっているのか。 →大正区からの志願者が最も多く、地域から熱い信頼を得ている。ファッション工学科について府下唯一の学科であることから、吹田市や岸和田市など幅広い地域から志願がある。大正区・近隣の地域の中学に関して、管理職で中学校訪問を行い、学校の現状や在校生の状況等について丁寧に伝えていくことを考えている。 第2回（11月8日） ○学校の現状について ・令和6年度の主な取り組み・企業連携についてどの科が中心に取り組んでいるのか。 →ファッション工学科の生徒を中心に取り組んでいる。今回取り上げた取り組み以外にも大正ものづくりフェスタやたいしょう愛らんど、進学フェア、産業教育フェア、大阪・関西万博への出展イベント等について、ファッション工学を含む全学科で取り組みを進めている。また資格取得については、全科でそれぞれの専門を活かした資格取得に成果を上げている。電気科では1年生で電気工事士技能競技大会の出場に向けても毎日遅くまで補習が行われている。 第3回（2月18日） ○学校の現状について ・今年度、在籍生徒 280 名でスタートし、1 月末時点の在籍生徒数 261 名（転入学 1 名） ・3 年生 ファッション工学科 29 名 セラミック科 16 名 工業化学科 3 名 機械科 20 名 電気科 19 名 計 87 名が卒業予定 卒業式 令和 7 年 2 月 28 日（金） ・中学 3 年生進路希望調査（2 月上旬） 140 名募集 99 名（0.71 倍） 昨年度受検者 105 名（0.75 倍） ○令和 6 年度主な取り組み・企業連携 ・『第 23 回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会（ファッション甲子園 2024）』 優勝 34 都道府県 95 校 1,147 チーム 1,929 作品の頂点に。（大阪府の高校で初の快挙） ・メタバース空間におけるイベント「ミニ万博」への出展 - メタバース空間「大阪府立バーチャル高等学校」内アバター（エモート）によるファッションショーの開催。 - Cluster 社（仮想空間アプリ運営）とのコラボ。 ・万博 STEAM 教育プログラムを活用した支援授業 - 万博テーマ事業プロデューサー中島さち子氏が専門人材として授業（2 コマ）の支援を受け、万博パビリオン（クラゲ館）において、生徒たちの探究成果をワークショップとして発表することをめざす。（成果）本校からエントリーした 2 チームが次年度万博パビリオン（クラゲ館）に出展決定。 ・(株) 徳間ジャパンコミュニケーションズとの企業連携 - 演歌歌手浅田あつこさんのデビュー 30 周年記念新曲の衣装のデザインから制作までを実施。 - 国立文楽劇場での記念イベント及び本校文化祭・ファッションショーにてお披露目会を実施。 ・タビオ奈良（株）との企業連携 コラボ商品の開発・販売 - ホールガーメント実習装置（無縫製・シームレス）を用いてコラボ商品「チンアナゴのペンケース」を制作。ノベルティーとしてペットボトルケースも制作配布。 ・令和 6 年度学校経営計画の取り組み状況 ・教員の授業改善 - 授業力向上チームの設置（今年度～）。 1 人 1 台端末・電子黒板等 ICT 機器の活用促進。 - オンライン授業についての校内研修及び実施。 - 画像生成 AI の活用について研究授業の開催。（教育新聞社から取材） - 授業アンケート振り返りシートを用いた授業改善の実施。 - 管理職及び教員間の相互授業見学の実施。 10 年経験者研修に係る公開研究授業の実施（2 名）事後研究協議の開催。 ・検定・資格取得の推進 - ジュニアマイスターの取得者数 7 名（R5 は 7 名） 機械科 5 名、電気科 2 名 ・基本的生活習慣の確立（遅刻指導） - 年間 1200 件以下とする目標を共有し、教員全体で粘り強く指導を行っている。 2 月現在 1316 件 今年度 3 年生については過去 10 年間で最も少ない遅刻総数であった。年間 191 回（1 日平均 1.3 回）。目標件数を上回ってしまった事について、1 年生の指導回数が多かったこと、特定の生徒の生活習慣の改善ができず、回数が増加してしまった事が要因にあげられる。今年度の 3 学年の成功事例を踏まえ、学年と連携を深めながら次年度も指導の充実を図る。 ・ICT を活用した校務の効率化（働き方改革） - 運営委員会・職員会議（1 月より実施）についてペーパーレスで実施。 - 全校ポータルサイトの連絡掲示板での情報共有が浸透してきている。 - 保護者への連絡や案内について Google クラスルーム・ホームページを活用するなどペーパーレス化推進。 - 欠席・遅刻等の連絡確認 フォーム作成ツール活用（6 月より実施）電話対応等の負担軽減。 ・令和 6 年度 進路実績 87 名（学校斡旋就職 59 名（71％）・進学希望者 18 名（21％）・その他 10 名（8％）） - 就職内定者数 59/59（100％） 求人数 3048 件 求人倍率 52.8 倍と昨年度を上回った。 ・各種イベントへの参加、体験入学・学校説明会 - 次年度産業教育フェアの開催について地域ごとの商業施設での開催を含め検討中 - 体験入学・学校説明会（4 回実施） 延べ参加生徒数 174 名 - 体験入学の参加生徒数が 69 名と多く、次年度は体験入学の回数増や内容について改善を図る。

	○学校教育自己診断について結果と分析 ○令和6年度「学校経営計画及び学校評価」令和7年度「学校経営計画及び学校評価」（案）について 【学習指導】 生徒、保護者、教職員全体から学習指導への高い評価が得られている。生徒は工業に関する知識や技術、ICT活用、キャリア教育を肯定し、保護者からは専門教育や進路指導について信頼されている。また、生命の大切さや社会ルールの指導も評価されている。教職員は個別の進路指導や教材の精選において成果を上げており、学校全体で生徒の未来を支える体制が充実している。 ○今後の課題 生徒の学習理解や家庭学習の習慣が低下しており、保護者からも授業のわかりやすさへの改善について要望がある。教職員のキャリア教育の評価も課題で、学習支援の充実や指導法の見直しが求められている。 【生活指導】 生徒は学校生活を楽しみ、ルール遵守や友人関係、家庭での会話を大切にしている。教員の生活指導やいじめ対応にも信頼があり、保護者からも高評価を得ている。家庭との連携が取れており、生徒の健全な成長を支えている。教職員間でも教育相談体制が整備され、組織的に対応できる環境が構築されている点が学校全体の強みである。 ○今後の課題 生徒から学校生活の楽しさや相談環境への評価が若干低下しており、指導方法や支援体制の見直しが必要である。保護者からも教員の生徒理解や学校生活の楽しさに改善要望があり、教職員間で人権意識を高め、いじめ対応を強化する必要がある。 【学校運営】 生徒は学校行事や部活動に積極的に参加し、楽しさや主体性を感じている。保護者は学校の相談対応や教育情報の提供を高く評価し、家庭との連携も強化されている。教職員は日常的な話し合いや服務規律への意識が高く、校長の理念発信も向上。これらの取り組みにより、学校運営の安定と信頼が確立されている。 ○今後の課題 生徒の部活動や学校行事への満足度が若干低下しており、活動内容の魅力向上と参加しやすい環境整備が必要である。また、満足度向上に向けた工夫も求められる。保護者では、ホームページ閲覧率の低下と情報発信の改善が課題で、満足度向上策が必要である。教職員間では、学校行事や連携評価の低下があり、意識共有と連携強化が急務。 (委員からのご意見) ・遅刻について年間約1300件となっているが、1日平均で何件ぐらいになっているか。 →全学年で8.5件/日（1年4.3 2年2.9 3年1.3）次年度は6～7件/日を目標に指導改善に努めたい。 ・HP等での魅力発信について、HPへの生徒写真のアップについて許可取りはされているか。 →入学時に掲載への保護者・生徒の許可取りは行っている。その際に許可が得られなかった生徒も複数いるので、基本的には後ろ姿やモザイク等の処理、画素数を落としての掲載になってしまう。撮影する際に本人の許可を得られたものについては処理を施さず掲載している。私学では保護者アカウントでHPへ入れば写真が鮮明に見れるような工夫をされているところもあるので、他校の取り組みなどを参考に改善に取り組みたい。 ・高専連携として年2回大阪文化服装学院へ授業を受けに来ていただいている。その中でうまく「コミュニケーション」をとれる生徒さんは学びに対する意欲や吸収も早く、成長を感じられる。 ・「コミュニケーション能力」を養えるような学校環境づくりを次年度以降も期待したい。 ・ペーパーレス化推進で保護者にGoogleアカウントを活用してもらうために合格者説明会や入学式、学校行事などでGoogleアカウントについての説明会を実施してはどうか。 ・学校広報においてメディア露出は非常に有効な手段、ファッション甲子園優勝や企業連携等でメディアに取り上げられることも多かったと思うが、SNSでも反響が大きいので機会があれば積極的に活用してもらいたい。 ・授業アンケート振り返りシートについて良い取り組みであり中学校でも参考にしたい →今年度から試行的に実施しているが、提出率も非常に高く、個々の先生方の授業の振り返り・分析・ブラッシュアップに役立ててもらっている。 ・大阪市以外の地域にも広報してもらいたい。（中学校訪問や学校説明会・体験入学等の案内） →ファッション工学の生徒については吹田市や堺市・岸和田市から受検する生徒も複数いている。 ・大阪市以外での泉尾工業の知名度が低い。学校の魅力や特色のある学科について知ってもらうためにも大阪市以外の地域へのPRについて強化していく必要がある。 ・ホームページについて、私学のように動画や写真が全面にでてくるような魅力あるものにできないか →府立高校のフォーマットがあるのでその中で改善を重ねている。コストと更新のし易さ、タイムリーな情報発信を心がけており現在のような形となっている。学科ごとの紹介ページを生徒が主となって作成できないかというご意見もありましたので、次年度に向けて検討・改善をおこなう。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	(1) わかる授業めざして授業改善する ア 研究授業の実施、授業アンケートの活用により授業改善を行う。	ア 教員の相互授業見学(6月・10月)の実施と授業アンケートを通じて授業改善を行う。	ア・授業アンケートにおいて、「教材活用」「授業展開」「授業分析」の評価を3.4以上[R5-3.4]	ア・6月・10月に相互授業見学週間を計4週間実施し、1人平均2回授業見学を行い、授業力の工場に勤めた。授業アンケートにおいて、「教材活用」「授業展開」「授業分析」の評価3.4[R5-3.4](○)
	イ 1人1台PCの積極的な利用等、ICT機器を活用した授業を推進する。	イ 授業における1人1台端末の活用を全教科で推進する。また、電子黒板、プロジェクターなどのICT機器を活用し、生徒の授業への興味・関心を引き出し、主体的に学ぶ姿勢を育成する。	イ・「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を85%以上[R5-81%]	イ・「学校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率82%(△)
	ウ 学校設定科目「基礎学習」において、高等学校段階の学習に必要な基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。	ウ 担当者間で学習状況の情報を共有し、個に応じた学習内容の検討をおこなう。	ウ・「授業の内容がよくわかる」の肯定率を90%以上[R5-87%]	ウ・「授業の内容がよくわかる」の肯定率83%(△)
2 生徒のキャリア形成と自己実現に向けた指導計画の確立	(1) 主体的な進路選択に向けた工業教育、進路指導の充実 ア 検定・資格取得を推進する。	ア 進路選択における資格取得・検定合格の意義を説明し生徒の受験意欲を喚起する。 受験希望者に対する講習会を計画的に実施する。	ア・ジュニアマイスター取得者数をR5年度より増加させる。[R5-7名]	ア・ジュニアマイスター取得者数をブロンズ4名、シルバー3名、計7名(○)
	イ 進路指導の充実	イ 3年間を見通した進路指導計画に基づき、生徒の主体的な進路選択に資するため、ガイダンス機能の充実やインターンシップへの積極的な参加を促進する。	イ・学校紹介の就職内定率を100%。[R5-100%] ・「将来の進路や生き方について考える機会が多い」の肯定率90%以上を維持する。[R5-89%]	イ・学校紹介の就職内定率は100%(○) ・「将来の進路や生き方について考える機会が多い」の肯定率87%(△)
	(2) 社会人基礎力の育成と規範意識の醸成 ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成	ア 基本的生活習慣の確立に向け、遅刻指導を重点的な課題であることを教職員全体で共有し、登校時の正門での指導、放課後の遅刻者指導を行う。 また、LHR、集会などの機会を通じて、規範意識の醸成に向けた指導を行う。	ア・遅刻者数を1200名以下にする。[R5-1255名] ・「学校のルールを守って学校生活を送っている」の肯定率を95%以上とする。[R5-95%]	ア・遅刻者数を年間1340名(△) ・「学校のルールを守って学校生活を送っている」の肯定率94%(○)

府立泉尾工業高等学校

3 安全安心で魅力ある学校づくり	(1)安全安心な学校生活のための生徒支援 ア 人権意識の向上	ア・人権に関する LHR の実施、全校集会での人権講話の実施をはじめ、あらゆる場面を人権教育の機会と捉え教育活動を推進する。	ア・いじめに関する講話の実施 ・人権に関する LHR での取り組みの実施	ア・5月に、全校生徒を対象に「いじめ」に関する校長講話を実施し、生徒一人ひとりが、自身の行動を見直し、いじめのない学校を築くための意識を高める機会とした。(○) ・1年生は11月に「いじめについて」、2年生は11月に「デートDV」、1月に「在日韓国・朝鮮人問題」、3年生は11月に「ブラック企業」をテーマにした人権HRを実施した。各学年で、それぞれのテーマに沿った学びを深め、生徒たちが人権意識を高める重要な機会となった。(○)
	イ いじめ防止対策の推進	イ・学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめ対策委員会を中心にいじめの未然防止、早期発見、早期解決に向け、組織的に対応する。	イ・「いじめに対する学校の対応」の肯定率 90%以上とする[R5-87%]	イ・「いじめに対する学校の対応」の肯定率 86%(△)
	ウ 全教職員による個別の生徒支援体制の確立	ウ・全教職員による生徒観察の情報を共有し、SC、SSW との連携のもと特別教育支援チームを中心に支援方法を検討し、個別の支援につなげる。	ウ・関連会議を毎月開催する	ウ・毎月1回チーム会議を開催。特別支援チームにおいてアセスメントを行いSCやSSWと連携し、医療機関につなげることができた。(◎)
	エ 担任と教科担当者間の連携強化	エ・学期毎に教科担当者会議を開催し、担任と教科担当で生徒の状況について情報交換し、適切な指導に繋げる。	エ・教科担当者会議を各学期1回以上開催する [R5-各学期1回実施]	エ・各学期に全教職員で「気づきシート」を作成し、それを基に学科ごとにスクリーニング会議を実施した。より綿密な情報共有を図り、生徒一人ひとりの状況を的確に把握することができた。(◎)
	(2)学習環境の整備と生徒の健康管理 ア 校内美化の取り組みの推進	ア・教室、実習教室内の整理整頓、清掃を行い、快適な学習環境を整備する。	ア・「校内美化の状況」の肯定率 80%[R5-78%]	ア・「校内美化の状況」の肯定率 77%(△)
	(3)主体的に学校生活を送る意識の醸成 ア 学校行事の充実と部活動の活性化	ア・生徒会を中心に生徒にとって魅力ある学校行事を計画する。 ・新入生オリエンテーションで部活動紹介を実施し、部活動への加入を促進する。また、部活動内容を頻繁にホームページに掲載し、部活動の様子やその魅力を発信することで学校活性化させる。	ア・「学校行事に積極的に取り組んでいる」[R5-91%] ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定率 70%。[R5-54%]	ア・「学校行事に積極的に取り組んでいる」の肯定率 89%(△) ・「部活動に積極的に取り組んでいる」の肯定率 52%(△)
4 学校組織力の向上と校務の効率化	(4)学校活性化に向けた広報活動の充実	ア・近隣中学校や地区別の学校説明会に積極的に参加し、学校PRを図る ・地域、企業と連携した取組を推進し、工業高校の学習内容についての理解を広める。 ・学校ホームページを充実させる。	・R7入学者選抜での全体の志願倍率 1.00 倍[R5選抜-0.66 倍]	・R7入学者選抜での全体の志願倍率 0.75 倍(△)
	(1)ICT 活用した校務の効率化	・会議資料のペーパーレス化を進め、紙媒体使用時に生じた業務時間の短縮を図る。また、職員間の連絡、周知等の共有事項は、学校掲示板を利用することを促進する。 ・保護者への連絡や案内文書をホームページ及びグループウェアを活用し配付するため、保護者の方にグループウェアのアカウント登録を促進する。	・各種会議における会議資料をペーパーレス化する。 ・グループウェアの保護者のアカウント登録率が 50%以上とする。(R5-33%)	・運営委員会は4月より、職員会議は12月から会議資料のデジタル化を進め、ペーパーレス化できている。(○)
	(2)機能的な学校組織への改善と働き方改革の推進	・「府立学校における働き方改革に係る取組み(平成30年3月)」に沿って、業務内容の見直し、業務分担の均衡化などを行い、業務の効率化を図る。	・時間外勤務時間が月 80 時間以上の職員をなくす。(R5-4名)	・授業参観や文化祭などの学校行事の際に、保護者対象のアカウント登録説明会を実施した。グループウェアの保護者アカウントの登録率 43.6%となった。(△)
				・時間外勤務時間が月 80 時間以上の職員 2 名(△)